

青函連絡船とは

青函連絡船は、日本にあった鉄道連絡船のひとつで、その名のとおりに本州の青森と北海道の函館とを結んでいました。

明治末期、上野―青森間等を運行していた日本鉄道が、青森―函館間航路の直営を企図してイギリスに蒸気タービン船2隻を発注、この2隻が鉄道国有化で国鉄に引き継がれて、1908(明治41)年に比羅夫丸、田村丸として就航、これが国鉄青函連絡船のはじまりとなりました。

北海道開拓事業の本格化で輸送力増強が望まれ、1925(大正14)年から船の中に線路を敷き、貨物を貨車ごと積み込む「車両航送」という輸送方法を採用、その効果は絶大で、積み下ろし時間が大幅に短縮されたため、北海道の水産物が関東・北陸まで運ばれるようになり、流通革命と呼ばれました。

以後、建造された青函連絡船はすべて車両航送船で、戦災による全滅、洞爺丸台風という不幸を乗り越え、1988(昭和63)年3月13日に青函トンネルにその役目を譲って終航となるまで、80年にわたって本州と北海道を結ぶ大動脈として活躍しました。最盛期は、13隻で1日30往復もしていました。

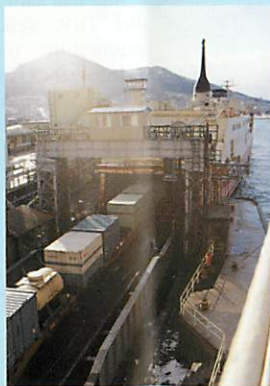
80年間に約90隻が就航、総運航回数718,239航海、運航距離80,894,813キロメートル、輸送旅客161,127,982人、輸送貨物246,976,302トン。

青函連絡船の貨物輸送

連絡船というと、優雅な船旅を思い浮かべる人が多いかもしれませんが、青函連絡船の本業は貨物輸送でした。函館まで来た貨物列車は、船の後ろから積み込まれ、青森で下ろされて日本各地を目指しました。翔鳳丸以降建造の青函連絡船には、客は乗せなくても、貨車を運ばない船はありませんでした。

台風で5隻の連絡船が沈没

1954(昭和29)年9月26日の台風15号(洞爺丸台風)は、青函連絡船に大きな被害をもたらしましたが、沈んだのは洞爺丸だけではなく、第十一青函丸、北見丸、日高丸、十勝丸の4隻も運命をともにしました。犠牲者総数1430人。どの船も運航を中止して、函館湾内に錨を下ろし避泊したうえでの遭難でした。



函館第二岸壁



洞爺丸

摩周丸について

摩周丸は、1964(昭和39)年から続々とつくられた津軽丸型連絡船(高速自動化船)7隻のうちのひとつで、1965(昭和40)年6月に就航し、1988(昭和63)年3月の青函連絡船最後の日まで走りました。連絡船廃止後、母港函館に保存されることになり、現在、博物館船として乗船することができます。

操舵室(船橋)・無線通信室が当時のまま残り見学できます。また、旧グリーン船室の前部を改装して、実物部品や模型等を展示しているほか、パネル・映像・音声などで青函連絡船の歴史やしぐみを解説しています。車両甲板・総括制御室・機関室は直接見学することはできませんが、展示室からネットワークカメラを遠隔操作してモニターで見ることができます。

2008年度 経済産業省近代化産業遺産認定

2011年度 日本機械学会機械遺産認定

摩周丸 MASHU MARU

●船種・用途：汽船・国鉄連絡船(客載車両渡船) ●竣工日：1965(昭和40)年6月15日 ●建造所：三菱重工業株式会社神戸造船所 ●船主：日本国有鉄道(竣工時) ●総トン数：8,327.71トン(竣工時) ●船質：鋼製 ●全長：132m / 幅：17.9m / 深さ：7.2m / 喫水：5.2m ●航海速力：18.2ノット ●主機関：ディーゼル / 出力：12,800馬力(1,600馬力×8台) ●旅客定員：1,200人 / 乗組員数：50人 ●搭載貨車：48両(ワム=14~16t積有蓋車換算) / 搭載自動車：12台(乗用車)
●船歴：1965(昭和40)年6月30日 日本国有鉄道青函航路に就航 / 1987(昭和62)年4月1日 国鉄分割民営化により北海道旅客鉄道株式会社に移管 / 1988(昭和63)年3月13日 青函トンネル開業に伴う同航路廃止(3月14日休止、9月19日廃止)により終航 ●運航回数：35,493航海 / 運航距離：3,997,555km / 輸送旅客：11,680,367人 / 輸送貨物：12,457,254t

入館料

- 一般500円
 - 児童・生徒250円
 - 未就学児無料
- ※団体割引料(20人以上)
一般400円 / 児童・生徒200円



函館市青函連絡船記念館摩周丸

〒040-0063 北海道函館市若松町12番地先
Tel: 0138-27-2500 Fax: 0138-27-2550
info@mashumaru.com http://mashumaru.com/

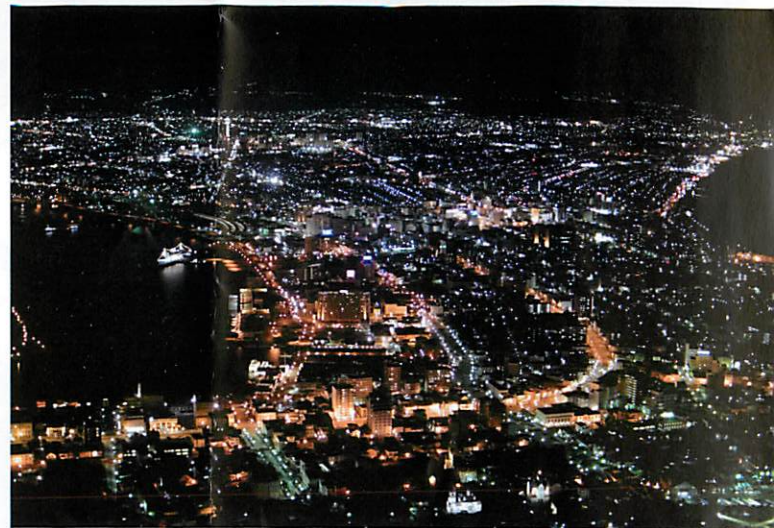
開館時間

- 4月~10月
8時30分~18時
(入館は17時まで)
- 11月~3月
9時~17時
(入館は16時まで)

函館市青函連絡船記念館

摩周丸

海の上の展望台



函館三大展望台



はこだてロマンティック♥ビュー

摩周丸の
甲板に立てば
西部地区から
駒ヶ岳
トラピスト修道院が
麓にある丸山まで
360度見渡せます



MUSEUM SHIP MASHU MARU OF HAKODATE

函館市青函連絡船記念館摩周丸 MUSEUM SHIP MASHU MARU



ライブラリー「運航ダイヤ一覧」
Library "Compilation of the Navigated
Diagram"



特別展
Special Exhibition



喫茶・売店
Cafe and Shop



映像シアター
Video Theater



グリーン指定椅子席
Second-class Seat



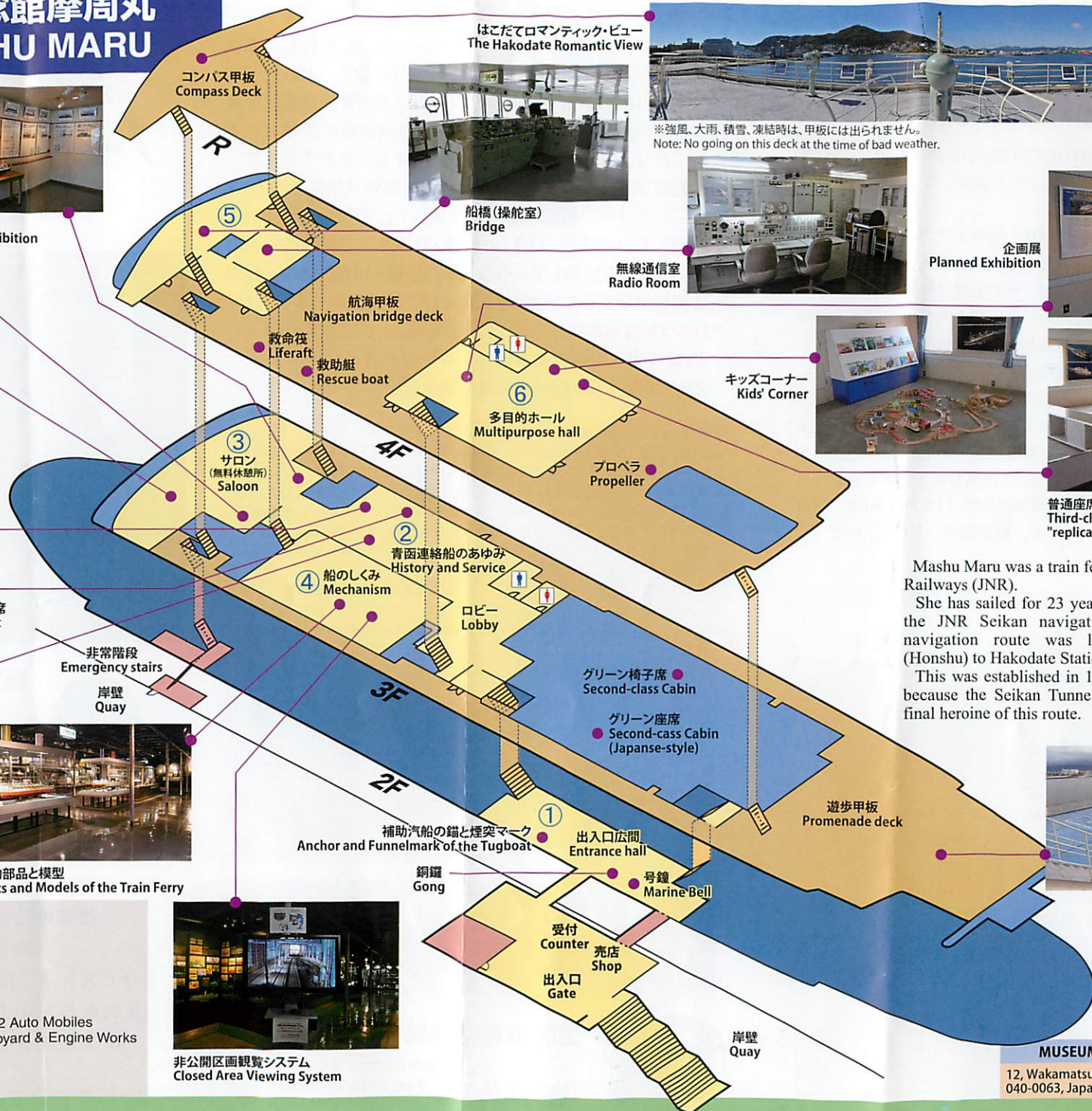
青函連絡船の歴史
History of the JNR Seikan Navigation Route



実物部品と模型
Parts and Models of the Train Ferry



非公開区画観覧システム
Closed Area Viewing System



はこだてロマンティック・ビュー
The Hakodate Romantic View



船橋 (操舵室)
Bridge



※強風、大雨、積雪、凍結時は、甲板には出られません。
Note: No going on this deck at the time of bad weather.

無線通信室
Radio Room



企画展
Planned Exhibition



キッズコーナー
Kids' Corner



普通座席「レプリカ」
Third-class Cabin (Japanese-style)
"replica"

Mashu Maru was a train ferry of Japanese National Railways (JNR).

She has sailed for 23 years from 1965 to 1988 in the JNR Seikan navigation route. The Seikan navigation route was linked Aomori Station (Honshu) to Hakodate Station (Hokkaido).

This was established in 1908 and closed in 1988, because the Seikan Tunnel was made. She was a final heroine of this route.



自動車甲板
Auto deck

General Characteristics

Name : Mashu Maru
Type : Train Ferry
Tonnage : 8327.71 GT (at the completion)
Length (O.A.) : 132.00 m
Breadth : 17.90 m
Propulsion : 8 Diesel Engines, 2 Screws, 12,800 hp
Service Speed : 18.2 knots
Capacity : 1,200 Passengers, 48 Freight Cars and 12 Auto Mobiles
Builder : Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. Kobe Shipyard & Engine Works
Launched : March 1965
In Service : 30 June 1965
Out of Service : 13 March 1988

MUSEUM SHIP MASHU MARU

12, Wakamatsu-cho, Hakodate-shi, Hokkaido
040-0063, Japan Phone: +81-138-27-2500